紀伊民報　2017年(平成29年)11月3日　金曜日　第22581号　日刊

下水処理にイトミミズ

県 費用削減へ実証実験

県は近く、岩出市の那賀浄化センターで、イトミミズを活用して、下水処理費用が削減できないか、実証実験を始める。県工業技術センターなどが開発し、食品工場などの排水処理に実用化されている「エスケープ法」で、有効性が認められれば、他の下水処理場への導入につなげたいという。

県下水道課が主体となり、県工業技術センターや県下水道公社などと協力。日本下水道事業団が、実験結果の解析や評価をする。

エスケープ法は、汚水の中にパイル織物が入った装置を設置し、イトミミズを繁殖させ、汚れの原因物を捕食、分解させ、水を浄化する方法。県工業技術センターと、浄化槽の設計・施工などをする「エコ和歌山」（田辺市）、パイル織物などを製造する「オーヤパイル」（橋本市）が共同で開発した。

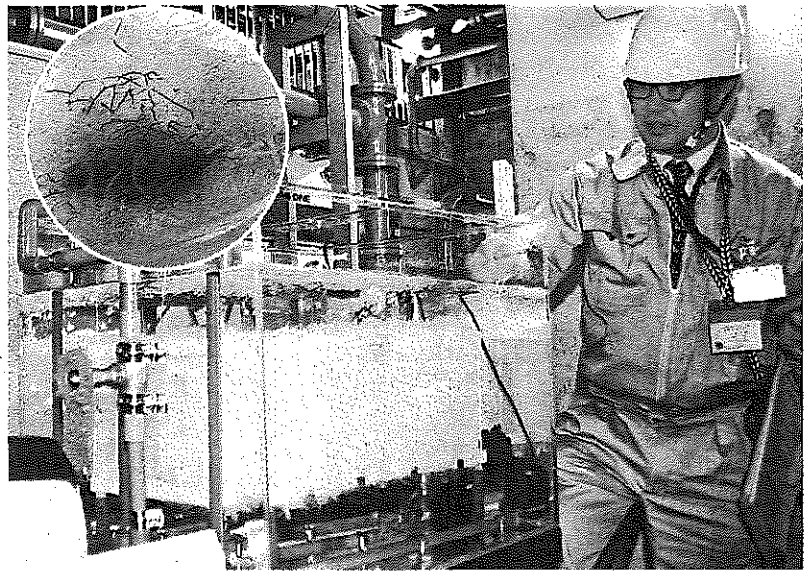
梅加工場で実績

実証実験したみなべ町の梅加工場では、約8割の汚泥削減を確認し、別の大手化学工場でも7～8割の効果が認められた。すでに実用化され、田辺市やみなべ町などの梅加工場やビール工場など6社で利用されているという。

県はこれを下水処理にも活用できないか、3年かけて那賀浄化センターで実証実験する。センターは、下水道と接続している岩出市と紀の川市の汚水を集め、ごみを取り除いたうえで、微生物を利用して浄化したり、消毒したりして放流している。この過程で発生する、微生物の塊「活性化汚泥」は下水処理に再活用しているが、余った不要分は、産業廃棄物として民間処理場で処理している。その費用は2016年度で約1700万円といい、この削減を目指す。

今回の実証実験では、汚泥の中にパイル織物を使った装置（縦50㌢、横50㌢、高さ180㌢）を38個沈め、イトミミズを繁殖させる。さらに、生息しやすいよう空気を送ったり、汚泥が沈殿しないようミキサーでかき回したりするなどイトミミズが最も効率良く増える環境づくりを調べる。

実証実験開始を前に那賀浄化センターで1日、内覧会があり、報道関係者や県、地元自治体職員らが出席した。県下水道課職員は「知事を筆頭にこのプロジェクトを進めている。成果を出し、他の下水処理場での統一した技術にできるよう、希望を持っている」と話した。



イトミミズ（円内）を活用した下水汚泥処理の実証実験について、模擬装置を使って説明する県下水道課職員＝1日、岩出市で

紀伊民報

発行所 © 紀伊民報社
和歌山県田辺市秋津町
100番地 〒646-8660
電話・0739（22）7171（代）
営業FAX・0739（26）0077
編集FAX・0739（25）3094
振替口座・00930-2-21977

和歌山支局
電話073（428）7171

串本支局
電話0735（62）7171

新宮通信部
電話0735（31）7174

ベル
ベルコシティホ
ホテルハーヴェ
ブライダル